



TITLE:

京大広報 No. 627

AUTHOR(S):

京都大学広報センター

CITATION:

京都大学広報センター. 京大広報 No. 627. 京大広報 2007, 627: 2467-2482

ISSUE DATE:

2007-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196462>

RIGHT:



京大広報

No. 627

2007.10



全学教育シンポジウム
—関連記事 本文2470ページ—

目次

こころの未来研究センターの設立と課題	
こころの未来研究センター長 吉川左紀子	2468
〈大学の動き〉	
東アジア研究型大学協会(AEARU)第13回総会・	
第21回理事会の開催	2470
全学教育シンポジウム「京都大学における教育の	
将来像問う—第Ⅱ期中期目標の策定に向けて	
学部・大学院教育の現状と課題を考察する—」	
を開催	2470
部局長の交替等	2471
〈部局の動き〉	
寄附研究部門の設置	2472
〈寸言〉	
忘我の調べ	笹岡隆甫 2473
〈随想〉	
私のフロンティア	
名誉教授 和田英太郎	2474

〈洛書〉	
富も徳もある社会	田中秀夫 2475
〈話題〉	
青山審議官が宇治キャンパス防災研究所を訪問	2476
オープンホスピタル＝第2回看護フェア＝を開催	2476
故河合隼雄元文化庁長官・名誉教授・元国際	
日本文化研究センター所長追悼式	2477
〈訃報〉	2477
〈お知らせ〉	
宇治キャンパス公開2007	
宇治キャンパス60年 こしかた、これから	2478
無料法律相談のお知らせ	2480
〈日誌〉	2480
〈隔地施設紹介〉	
フィールド科学教育研究センター	
森林ステーション・芦生研究林	2481

京都大学広報センター

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

こころの未来研究センターの設立と課題

こころの未来研究センター長 吉川 左紀子

こころの未来研究センターは、心理学、認知科学、脳科学に人文科学を含めた、「こころ」についての学際的な総合研究拠点として平成19年4月1日に設立された(<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/index.html>)。本センターは、「こころ」という目に見えない対象を正面に据え、そのはたらきの解明をめざして多彩な学際的研究プロジェクトを推進するユニークな研究組織である。また、本センターの長期的なミッションとして、研究プロジェクトの成果にもとづき、未来に向かって生きるこころのあり方のヴィジョンを提示することを掲げている。



研究スタッフは専任教授4、助教2(就任予定を含めると専任教授5、助教4)、事務スタッフは事務長(兼任)、専門職員、および非常勤職員2という小さなセンターだが、4月以後、協議員会を月1回の割合で開催して諸般の規定等の整備や人事を進めてきた。7月には時計台記念館で設立記念シンポジウムを開催し、本センターの設置目的や理念を広く一般に知らせるなど、本格的な研究活動を開始する基盤は順調に整ってきている(京大広報No. 626)。

法人化後の国立大学で、小さいとはいえ新しい組織を立ち上げることは至難の業である。本センターも、3年前に遡る初期の構想から設置までには、何度か困難な状況に直面した。しかしそれを乗り越えて設置に到ることができたのは、平成14年にスタートした21世紀COE「心の働きの総合的研究教育拠点」、および京都大学が平成15年から文化庁、京都府、京都市、財団法人稲盛財団などとともに毎年開催してきた「京都文化会議：地球化時代のこころを求めて」という2つの先駆的事業の地道な成果の蓄積と、その成功によるところが大きい。本センターの目的・理念に含まれる、連携・融合の発想や、長期的な視座の重視、生活の知恵としての科学的知識の普及などに、これら2つの事業で培われてきた重要な支柱が継承されている。

平成18年度京都文化会議での閉会のことばの中で、尾池和夫総長は「こころ」という言葉のもつ意味

の深さと広がりについて言及され、Kokoroが国際語となるように、「京都文化会議の討議を継承させ、こころを研究するための新しい研究センターのような、目に見える形を創りあげる」と宣言された。本センターの英語名称として、「こころ」に近い意味の英単語をあてるのではなく、Kokoro Research Centerとしたのも、こうした経緯によっている。今後、その名にふさわしい研究成果を本センターから国内外に向け発信していきたいと考えている。

『研究領域とその内容』

センターの構成は図に示すとおりである。講座や部門といった区切りはなく、重なりをもった3つの研究領域、「こころとからだ」「こころときずな」「こころと生き方」を設定している。各領域の重なりは、融合研究の領域をあらわしている。センターの研究スタッフは、学内他部局や学外・海外研究機関、医療・教育機関、その他の公共機関の専門家と連携して、これら3つの研究領域や、融合領域に関わる研究プロジェクトを実施する。

「こころとからだ」領域は、主として「個のこころ」を探求する研究領域であり、この領域では、身体や行動とこころの働きとの関わりに注目して、脳科学から臨床心理学に至る多様なアプローチでこころの表象と身体性についての研究を行う。現在計画されている研究プロジェクトとしては、注意・意思決定を制御する脳内機構、「メタ認知」の発生や自己モニタリングのしくみ、発達障害の認知・感情過程と心理療法の関わり、内科疾患からみたこころと身体の関係、等がある。

「こころときずな」領域は、主として「こころとこころの関わり」に焦点をあてた研究領域であり、人のもつ社会的知性の特徴や、その成熟過程の解明を目的として研究を実施する。現在、表情、音声、しぐさなどによる対人相互行為の基礎となる心のしくみ、他者の行動や感情を理解する心のしくみ、自尊心、愛他心、倫理感、協調性といった高次の社会的感情やそれらに基づく行動の発現・調整のしくみなどに関する研究プロジェクトを計画している。

「こころと生き方」領域は、主として「こころと社会の関わり」や「こころのあり方」に焦点をあてた研究領域であり、現代社会における倫理観・死生観、

自己意識・他者意識のあり方などについて、歴史的、文化的背景も取り入れて分析する。具体的には、先端技術社会や現代医療における倫理観・死生観、身体疾患を抱える患者やその家族の生き甲斐感、少年犯罪などに現れる、解離した自己意識等に関するプロジェクトが計画されている。

これら3つの研究領域で取り上げる研究プロジェクトのテーマはいずれも、現代社会にみられるさまざまなこころの問題、たとえば、自己制御・自己抑制の弱体化、コミュニケーション能力の低下、倫理感の欠如などと密接に関連している。センターでの研究成果は、そうした問題への解決策を考えるうえで重要な手がかりが提供できると考えている。

『現在の活動状況』

4月以後、本センターでは、最初に述べたような研究体制の整備に加えて、神経科学、認知科学から民族学、宗教や芸術まで含む、幅広い専門領域の講師を招いて10回にのぼる公開セミナーを開催してきた。いずれのセミナーも、週日の午後から夕方という時間帯に開催されるにもかかわらず、学生や教職員だけでなく一般市民の方々も数多く参加されている。センターの研究活動への関心や期待を心強く感じるとともに、近い将来、センター発の研究プロジェクトの成果を、ワークショップ、シンポジウム、あるいは出版などの形で広く公開できることを願っ

ている。さらに、地域連携事業として、京都府・京都市の関係者の方々と連携プロジェクトの立案も進めているところである。

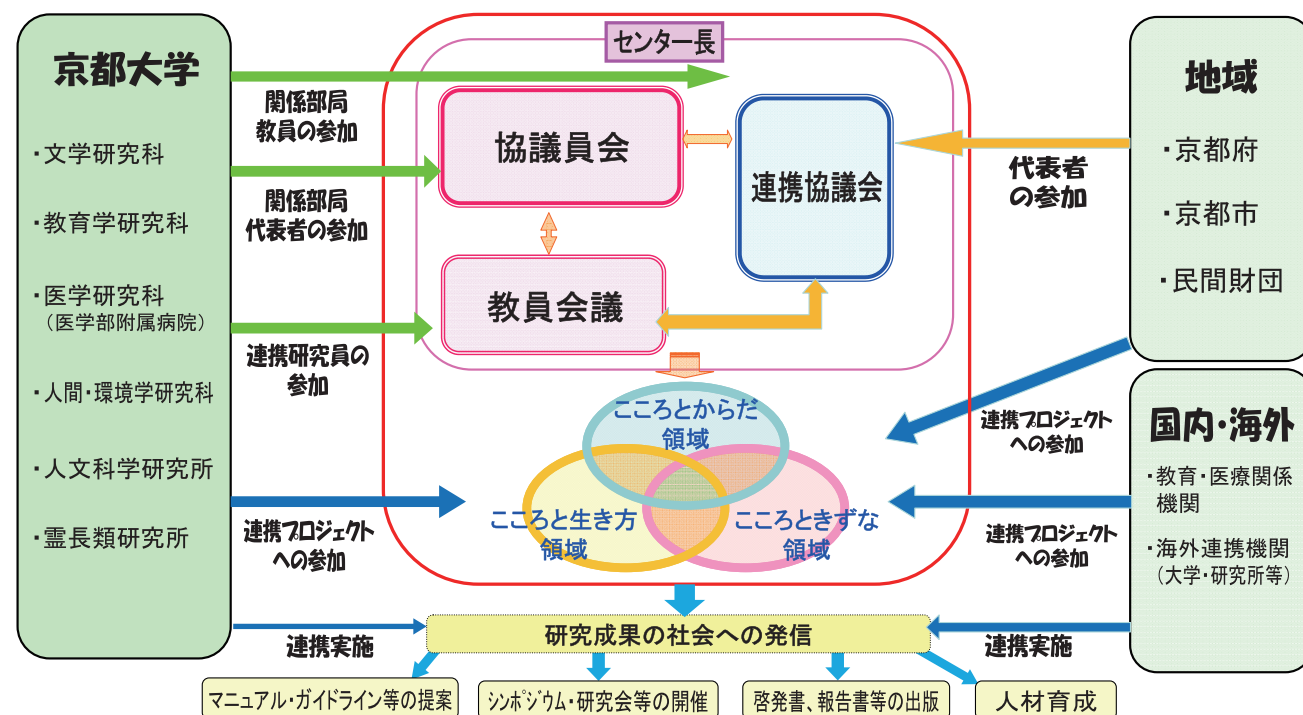
『当面の課題』

当初、4名の教授のみだった研究スタッフも、10月に2名の助教が就任し、平成20年1月からはさらに2名の助教が就任することが決まっている。4名の助教の専門領域は、進化行動学、社会心理学、認知発達心理学、神経科学と多様であり、それぞれの専門を活かし、研究プロジェクトで力量を発揮してくれることを期待している。さらに、10課題にのぼる連携プロジェクトがすでに提案され始動の準備が整うなど、本センターの活動はこれまでのところ順調といえる。

もちろん、今後に残されている課題は多い。なによりも、安定した研究資金の確保は急務の課題である。現在は、概算要求で獲得している特別教育研究経費、総長裁量経費などの学内資金、研究スタッフ個人が獲得した競争的資金がセンターの活動を支える資金源であり、安定した状況とはいえない。加えて、リエゾンオフィスの整備、研究プロジェクトの公募体制の整備、国内外の研究者との研究交流を促進する仕組みの整備など、課題は山積している。

こころの未来を探究する研究者の未来を少しでも明るくするため、微力を尽くしたいと考えている。

「こころの未来研究センター」組織体制



大学の動き

東アジア研究型大学協会(AEARU)第13回総会・第21回理事会の開催

8月22日(水)に京都大学において、東アジア研究型大学協会(AEARU)第13回総会・第21回理事会が開催された。

AEARUは、東アジア地域(中国、台湾、韓国、日本)の17の研究型大学で構成される大学連合であり、本学は副議長校(平成20年1月から議長就任予定)として、加盟大学間の学術交流に積極的な役割を果たしている。

総会は、14大学の代表約50人が集まり、前年度の活動報告ならびに今年度の事業計画が了承された。また、加盟大学の拡大の可能性および次期副議長校などについて審議を行った。

午後からは出席の代表より、各大学の最新情報あるいは将来構想についてプレゼンテーションが行われ、尾池和夫総長から、東アジアにおける学生交流を推進するための本学の新しい取組と提案を紹介した。

総会に引き続き理事会が開催され、諸課題を検討した。なお、理事以外の参加者は、本学総合博物館を見学した。その後、金 文京人文科学研究所長が



「東アジア漢字文化圏の現代的意義」と題して特別講演を行うとともに、金所長および同研究所教員の案内により人文科学研究所漢字情報研究センターを見学した。

8月23日(木)には、参加希望者による桂キャンパス視察が実施され、西本清一工学研究科長・副学長の説明・案内により桂インテックセンター、総合環境管理センターなどを見学した。

(国際部)

全学教育シンポジウム「京都大学における教育の将来像を問う―第Ⅱ期中期目標の策定に向けて学部・大学院教育の現状と課題を考察する―」を開催

9月6日(木)・7日(金)の両日、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場において、教職員233人の参加を得て、「京都大学における教育の将来像を問う―第Ⅱ期中期目標の策定に向けて学部・大学院教育の現状と課題を考察する―」をテーマとする全学教育シンポジウムを開催した。

このシンポジウムは1泊2日の討論集会の形で、参加者が教育について全学的な議論や意見を交わすことにより共通理解を深め、今後の教育の改善・充実に資するとともに、部局の枠を越えた教職員の交流の場となることを目指して、平成8年から開催され、今回が第11回となる。

今回は、教育再生会議の提言や中央教育審議会の

答申等、社会から求められる高等教育の将来像を踏まえた上で、第Ⅰ期中期目標・計画に係る評価から第Ⅱ期中期目標・計画策定へ向けての流れの中で、本学が掲げる「自由の学風」の理念をいかに継承・発展させるかを問い直すことにより、今後進むべき学部・大学院教育のあり方を探ることを目指した。

シンポジウムは、北村隆行高等教育研究開発推進機構長・副学長の司会進行で、1日目は丸山正樹理事・副学長の趣旨説明に始まり、尾池和夫総長による基調講演の後、今回のシンポジウムのテーマに関し北村機構長から問題提起があった。

その後、以下の5テーマに分かれ、問題提起を踏まえた分科会討論が行われ、夕食後も引き続き、分

科会討論及び全体でのフリー討論が夜半まで展開された。

1. 自学自習を根幹とする京都大学の教育の現状と課題 – 文系学部・研究科における新しい教育のあり方を探る –
2. 自学自習を根幹とする京都大学の教育の現状と課題 – 理系学部・研究科における新しい教育のあり方を探る –
3. 学部教育における研究所・センターが果たすべき役割を探る
4. 京都大学における英語教育の現状と課題 – グローバル化社会における英語教育のあり方を探る –
5. 学部教育における「国際教育プログラム」の現状と課題 – 世界的な教育・研究拠点としての国際交流のあり方を探る –

2日目は、各分科会から前日の分科会討論の報告



があり、最後に全体討論が行われた。

今回のシンポジウムでは、外部評価や予算配分を始め、本学を取り巻く状況に関して参加者の認識を新たにするとともに、終始活発な議論や意見交換がなされ、盛会のうちに終了した。

(教育推進部)

部局長の交替等 (新任)

医学研究科長・医学部長

塩田浩平医学研究科教授(医学専攻生体構造医学講座担当(解剖学))が、成宮 周医学研究科長の後任として、10月1日付けで選出された。任期は平成21年9月30日まで。



再生医科学研究所長

坂口志文再生医科学研究所教授(生体機能学研究部門担当(免疫学))が、中辻憲夫再生医科学研究所長の物質－細胞統合システム拠点長選出に伴う後任として、10月1日付けで選出された。任期は平成21年9月30日まで。



女性研究者支援センター長

稲葉カヨ生命科学研究所教授(高次生命科学専攻体制統御学講座担当(免疫学))が、塩田浩平女性研究者支援センター長の医学研究科長選出に伴う後任として、10月1日付けで選出された。任期は平成20年9月4日まで。



物質－細胞統合システム拠点長

中辻憲夫物質－細胞統合システム拠点教授(発生生物学)が、初代物質－細胞統合システム拠点長に10月1日付けで選出された。任期は平成24年9月30日まで。



部局の動き

寄附研究部門の設置

10月1日、数理解析研究所に「伊藤 清博士ガウス賞受賞記念(野村グループ)数理解析寄附研究部門」が、経済研究所に「伊藤 清博士ガウス賞受賞記念(野村グループ)数理ファイナンス寄附研究部門」が設置された。

今回設置された研究部門の概要は以下のとおりである。

1. 部 局 名 数理解析研究所, 経済研究所
2. 名 称 数理解析研究所
伊藤 清博士ガウス賞受賞記念
(野村グループ)数理解析寄附研究
部門
(Itô Research Division of
Mathematical Analysis)
経済研究所
伊藤 清博士ガウス賞受賞記念
(野村グループ)数理ファイナンス
寄附研究部門
(Mathematical Finance Division)
3. 寄 附 者 野村ホールディングス株式会社
4. 寄附金額 総額 1 億 2 千万円
5. 設置期間 平成19年10月1日～平成22年 9 月30日
6. 担当教員 数理解析研究所
寄附研究部門外国人研究員(特任教授)
Marc Yor
寄附研究部門教員(客員教授)
藤田 岳彦
経済研究所
寄附研究部門教員(客員教授)
高橋 明彦
寄附研究部門教員(客員教授)
加藤 康之
寄附研究部門教員(客員教授)
岡田 章
7. 研究目的 伊藤 清博士のガウス賞受賞の経緯
と社会的影響を踏まえ、数理解析寄
附研究部門では、数理解析の研究を
推進するとともに、高度な数理的能

力を有する人材の育成に寄与するこ
とを目的とし、数理ファイナンス寄
附研究部門では、ファイナンス分野
の社会的影響を踏まえ、数理ファイ
ナンスの研究を推進するとともに、
高度な数理的能力を有する人材の育
成、特に高度金融人材の育成に寄与
することを目的とする。

8. 研究内容 数理解析寄附研究部門では、伊藤元
所長の数学的革新が工学や物理学、
生物学からファイナンスに至る広範
な応用を獲得したことを踏まえ、確
率解析を始めとする数理解析の深化
とその展開研究を行う。数理ファイ
ナンス寄附研究部門では、金融市場
の確率論に基づいた数理モデルを用
いて、不確実な将来キャッシュフロ
ーの適切な価値評価、経済活動の動
的な最適化や意思決定法を研究す
る。またより高度な数理モデルを構
築してゆくことも研究対象とする。
両研究部門は共同で、数理ファイナ
ンスおよび関連する数学の講義を提
供し、京都大学の学生の数理ファイ
ナンスに関する理解を深める。さら
に、研究活動の一環として、数理フ
ァイナンスに関する国際的なシンポ
ジウムや研究発表会なども行う。
9. 研究課題 数理解析(Mathematical Analysis)、
数理ファイナンス(Mathematical
Finance)

寸言

忘我の調べ

笹岡 隆甫

皆さんは、今、どんな学生生活を送っていますか。

私が工学部建築学科の学生であった頃は、時間があふれていました。学校に行って、バイトをして、テニスサークルに入って、いけばなの稽古をして、それでも時間がありました。そこで、建築好きの仲間と集まっては、建築めぐりに明け暮れる日々。京都中の新旧の名建築をくまなく訪ねて歩いたり、千年家と呼ばれる古い民家があると聞いて兵庫県の山奥まで車を飛ばして見に行ったり…。

そうやっているうちに建築のおもしろさにひかれ、大学院まで進みます。週のうち半分を大学で過ごし、もう半分は家業であるいけばなの仕事に携わる、まさに二足のわらじをはいていたのです。

このままでは、どっちつかずになってしまう。

ずっとそう感じていた私は、25歳の3月、ついに決意。博士後期課程を中退し、いけばなを一生の仕事と決めました。

しかし、建築の勉強が無駄であったわけではありません。建築といけばなが、同じ造形手法に基づいているのをご存知ですか。

法隆寺を正面から見ると、左に尖った五重塔、右に四角い金堂があり、左右のバランスが違います。いけばなでも、左右に変化を持たせると、趣のあるデザインとなります。アシンメトリー(左右非対称)のデザインは、建築といけばなに共通の日本的な美しさの表現なのです。

また、現代建築の巨匠ミース・ファン・デル・ローエのデザイン論は Less is more。つまり、「厳選されたより少ない素材で、より豊かな空間をつくる」という考え方です。いけばなでは、重なる葉をどんどん切り落とし、残った葉のまわりに空間を作ります。100枚の葉があっても、残るのはたった20～30枚。まさに Less is more。現代建築の手法といけばなの手法にも、共通点が見つかりました。

もともと、いけばなは、建築を装飾する役割を担って生まれてきたもの。だから、建築との調和は、いけばなの大きな課題の一つです。学生時代に歩き



回って見つけた建築の一つに、実相院門跡というお寺があります。岩倉にある皇室ゆかりのお寺ですが、なんと建物に丸太で支えがしてある。早急な修復が必要とされるこの状況を少しでも多くの方に知ってもらおうと、京都在住のエッセイスト、麻生圭子さんの提案で、私を含めた有志が集まり、昨秋、あるイベントを企画しました。

ときは、十月、居待月の夜。虫の音が聞こえる実相院門跡で、コンサートを楽しみながら月が顔を出すのを待とうという優雅な催しです。小さな演奏会を開いてくださったのは、「放課後の音楽室」で有名なギター・デュオのゴンチチさん。

私の担当は会場飾花。でも、玄関や床の間に花を飾るのでは能がありません。私が舞台に選んだのは、西向きの広縁。竹製の大屏風をしつらえ、ナナカマドの紅葉をいけあげました。当日は快晴。ちょうどコンサートが終わるころ、作品の後ろから美しい月の姿が現れました。そう、月といけばなと建築が一体となることを考え、作品の高さや色彩を計算していけあげたのです。ここでも建築の勉強が生きています。

さて、その夜、ゴンチチさんが演奏してくださった曲の中に「忘我の調べ」という曲がありました。「我を忘れるくらい音楽に没頭すると、よい音楽ができる」と彼ら。

我を忘れるくらい何かに向かい合う。

私は、学生時代、いけばなもそこそこに、建築に没頭していました。でも、その時間は決して無駄ではありませんでした。

今も、花に向かい合う時は、我を忘れるくらい花に集中します。華道家の役目は、花を使って自己を表現することではなく、目の前にある花のよさを引き立てること。自分の色を出そうとすると、かえって花のよさを見失いがちになるのです。

若いうちは、いろんなことに我を忘れるくらい没頭すればよい。恋愛でも勉強でも趣味でもいい。そして、机上の学問だけでなく、いろんなものに触れてほしい。美しい音楽、美しい自然、美しい建築、そして生き方の美しい人…。教わるのではなく、自分自身で感じ、考えてほしい。

きっとその経験が、人生を豊かにしてくれるはずです。

(ささおか りゅうほ 華道「未生流笹岡」次期家元 平成9年工学部卒)

随想

私のフロンティア

名誉教授 和田英太郎

革新はいつの時代も合言葉の一つである。ご他聞にもれず私の自分史もそれなりにささやかな変革の連続であった。海洋の窒素代謝系を明らかにすることが36歳(1974年)までの研究テーマであった。



他の多くの学問分野と同じく海洋学も戦後の科学の勃興期(フロンティア)の中にあり、研究航海で得られたデータや解析が正しいのかどうかは、数年後の調査研究に待たねばならなかった。1969年には白鳳丸による第69-4次研究航海がハワイの経度に沿って北緯50度から赤道を越えて南緯15度まで3ヶ月間にわたって行われた。これは海洋生物の研究航海としては世界の先端を切る航海であり、日本に先を越されたと米国スクリップス海洋研究所の知人は残念がっていた。

1970年代はわが国における生命科学の勃興期でありその中心の一つとして三菱化成生命科学研究所が設立され、天然物有機化学、生化学、発生学、薬理学、脳神経学の中に社会生命科学や生物・社会地球化学が組み込まれた。生命の起源から社会システムのあり方までを包括した独自のライフサイエンスの体系を構築することが旗印であった。創設7年目(1975年)にこの研究所に加わったが、生物・社会地球化学の体系を構築することが私に課せられた研究課題であった。最初は知人も無く、そこにいること自体が第二のフロンティアであり、新しい学問分野が発展する様子を15年間にわたって学ぶことが出来た。

1991年京都大学に生態学研究センターが設立された。「次世代の生態科学を創出する。しかしぼろい建物以外は何もない。」というのが気に入って参画した。相変わらず当初は知人が一人もいなかった。生物多様性条約が締結され、新しい生態学を目指して燃えていた。志のみ高くプロジェクトの申請は空振りする状態が続いたが、5、6年目ごろからアジア

の研究の組織化、新プロや未来開拓などの大型プロジェクトの開始等歯車がうまく噛み合いだした。組織はヒトであると強く印象づけられた。この世界での10年は私にとって第三のフロンティアであった。

2001年文部科学省に総合地球環境学研究所が発足し、そこに移ることとなった。環境科学における文理融合・連携が第四のフロンティアの旗印である。未来開拓のプロジェクトからほぼ10年間、琵琶湖―淀川水系の研究を「流域管理」、「文理連携」をキーワードとして進めた。新しい自然の研究法を構築するための試行錯誤の時代であった。この研究はまだ発展途上でありその体系の構築は後進にゆだねることになった。

3年前から独立行政法人海洋研究開発機構・地球環境フロンティア研究センター・生態系変動予測研究プログラムに移った。今度はモデルと予測を中心とした地球物理が中心の世界である。流体の一般式が適応できない生態系の扱いを炭素循環から大気―海洋モデルに繋ぐことが中心課題となった。幸い若手が優秀で何とかセンターの中で存在感を獲得している。第五のフロンティアはマネージャーとしての能力を問われるなかなかきつい世界である。

さて、2005年2月には地球観測国際戦略10年計画が策定され、全地球観測網の整備が、衛星観測やロボットブイ、そしてコンピューターによる予測研究の急速な発展と連動して進む時代となった。いまや地球観測や予測研究が先端技術を駆使できる時代に入り、観測・モデル・シミュレーションの三位一体の研究は明日の生態系を考え、社会が環境変動に対処する具体策を構築する入り口に位置していると言える。つまりヒトの社会は今その歴史上初めて観測から社会システムの形成に至るハードルを越えることに挑戦しようとしている。変革とは、これからも日常的なものであると思えるこの頃である。

(わだ えいたろう 元生態学研究センター長・教授 平成13年退官、現在独立行政法人海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター 生態系変動予測研究プログラムディレクター 専門は、同位体生態学)

洛書

富も徳もある社会

田中 秀夫

わたしは、社会思想史を専攻するようになって以来、「スコットランド啓蒙」の研究をしている。ヒュームの『人間本性論』(1739-40年)やスミスの『国富論』(1776年)は、スコットランド啓蒙が生んだ古典である。30年あまりそのみ追いかけてきたというわけではなく、最近流行の「共和主義」にも関心をもってきた。といっても、わたしの関心は現代の公共哲学としての共和主義にあるより、むしろ18世紀の共和主義にある。啓蒙の共和主義は主流の自由主義、文明社会論に対する批判的理論であった。

18世紀のスコットランドは前世紀末の貧困のどん底から這い上がって、大学も思想、文化も栄える。それには様々な事情が関係している。豊かな自由の国イングランドへの憧憬もあった。人口200万にも満たない小国スコットランドは、1707年に、国民の多数の反対を押し切って、人口も富もほぼ10倍のイングランドとの合邦に踏み切る。1603年から同君連合でイングランド国王も兼ねていたステュアート家の国王は名誉革命で追放されていた。同家を支持する勢力ジャコバイトはその後、何度も反乱を企てたが、成功しなかった。今年合邦300年でイングランドでもスコットランドでもそれを記念した学会の催しが目白押しである。

合邦はスコットランドにとって決定的な事件となる。「イングランドの金で売買された」(バーンズ)合邦は富をもたらし、富は大学や図書館の充実を可能とし、支配階級のパトロネジ(恩顧)を通じてスコットランド啓蒙を生み出すのである。ヒュームもスミスも自力だけでは世に出られなかった。恩顧は地位や富の提供であるから、腐敗政治として反政府派(カントリ)の批判を招いた。「徳」すなわち公共的責任の自覚が叫ばれた。それは今日のわが国の政治や行政、さらには大学や文化に問われているものとまるで同



じである。

スコットランド啓蒙にとって象徴的な人物がいる。アーチボルド・キャンベル、第三代アーガイル公爵で、その恩顧はスコットランド啓蒙の誕生に大きな役割を演じる。数学を愛した公爵は約1万タイトル(1万2千冊余り)の蔵書を持ち、その数は時のエディンバラ大学の蔵書と匹敵した。事実上の国王ともいわれる公爵は一説には5万4千人に職を与えた。

啓蒙が終わる頃にウォルター・スコットという国民作家が登場する。エディンバラの目抜き通りに彼の雄大な像が立っている。スコットはクライズデル銀行券の顔でもある。『ロブ・ロイ』の方が今では有名だろうが、スコットの代表作『ミッドロージアの心臓』(1818年)はエディンバラで起こったポータス事件を素材にしている。密貿易商人の処罰に始まる一連の騒動の結果、商人の絞首刑から民衆暴動が起こり、それを鎮圧した警備隊長ポータスが狙われた。暴徒に発砲命令を出し、数名の死者が出た責任を問われたポータスは絞首刑を宣告されるものの、執行延期となる。そこで暴徒がトルブース監獄(心臓)を襲い、ポータスを縛り首にする。その首謀者は逃亡を続ける。主人公のジェイニーと邂逅した首謀者は、ジェイニーの懸命の訴えによって最後にアーガイル公爵の特赦を得る。

啓蒙の知的エリートは上流階級の支援を得て、今に伝えられる古典的な著作を生んだ。スコットランドの啓蒙思想家は「富と徳」の両立を求めて道徳哲学と経済学に手がかりを求めた。スコットランド啓蒙に憧れた植民地アメリカのフランクリンは、スコットランドの文明社会が少数の裕福な上流階級と多数の貧困な下層階級に分裂していると見抜き、アメリカの独立自営民の社会の方が平等でよいと考えた。しかし、アメリカには奴隷制があった。今も平等はユートピアである。「富も徳もある社会」はどこにあるのだろうか。

(たなか ひでお 経済学研究科教授、専門は社会思想史、経済哲学)

話題

青山審議官が宇治キャンパス防災研究所を訪問

青山 伸文部科学省審議官(研究開発局担当)が、増子 宏同省研究開発局地震・防災研究課長を伴い、7月27日(金)、宇治キャンパス防災研究所を訪問した。同研究所地震予知研究センターにて橋本 学副所長から宇治キャンパスと研究所の概要説明を受け、全国各地に多数の観測所を有する研究所の特性や、全国共同利用研究所としての重点機能と在り方について意見交換が行われた。

同センター研究棟テレメータ室で上宝、北陸、鳥取、阿武山の4観測網から伝送される地震記録を収録解析する地震波形データ総合解析装置を視察し、地殻歪・傾斜の観測点位置を示す地殻活動総合観測線図で詳しい説明を受けた。その後、強震応答・耐震構造実験室を視察し、工学研究科博士課程3年白山敦子さんから大型3次元震動台と実台模型を使用した加振実験映像の紹介と中島正愛教授の解説があり、大地震の発生に向けて震災による物的被害を軽



橋本副所長の説明を受ける青山審議官(右)と増子課長(中)

減するため、構造物の耐震対策と改修技法について積極的な意見が交わされた。

(防災研究所)

オープンホスピタル＝第2回看護フェア＝を開催

医学部附属病院では、8月4日(土)にオープンホスピタル＝第2回看護フェア＝を開催した。看護フェアは、昨年度から実施されている本院の新しい試みで、高校生や看護学生等の将来医療の道を目指す学生から地域住民の方々に至るまで、広く本院の看護の実態を紹介するものである。ここで看護の知識を深めていただくことはもちろん、本院の魅力を十分に伝え、将来、本院の看護師として活躍していただくことも視野に入れて企画されている。第2回目となる今回は、看護部だけでなく、薬剤部や検査部、事務部などの各部門も加わり、オープンホスピタルとして開催された。

当日は、リクルートスーツ姿の看護学生をはじめ、600人以上の参加があった。外来棟1階アトリウムホールを会場とし、各診療科・部ごとの看護業務などの内容を写真や資料を使って説明するパネル展示コーナーが設置され、体験を通して学ぶフィジカルアセスメントやBLS(一次救命処置)講習等も行われた。

その他にも、任 和子看護部長による「糖尿病看護」や本院の医師による「心電図の基礎知識」といっ



模擬静脈採血の様子

た講演会が開催され、講師の話す内容に、参加者は興味深い表情で聴き入っていた。

このフェアに参加した看護を学ぶ学生からは、「京大病院の看護業務を、授業で学習する以上に身近に感じることができた。」「人の命の重さについて改めて考えさせられた。」といった声が聞かれ、盛況のうちに終了した。

(医学部附属病院)

故河合隼雄元文化庁長官・名誉教授・元国際日本文化研究センター所長追悼式

去る7月19日に逝去された河合隼雄名誉教授の追悼式が、東山紘久理事・副学長を発起人代表とする実行委員会の主催により、9月2日(日)午後1時から3時まで国立京都国際会館イベントホールにおいて2,000人以上の参列を得て執り行われた。

式は、東山理事・副学長の挨拶に始まり、参列者全員による黙祷の後、尾池和夫総長、銭谷眞美文部科学事務次官、片倉もとこ国際日本文化研究センター所長、乾吉佑日本臨床心理士会会長代行による追悼の詞の後、哲学者梅原猛氏、哲学者鶴見俊輔氏、人類学者中沢新一氏による故人追憶へと続き、その後、ブラームス『弦楽六重奏曲 第1番変ロ長調』の献奏を行い、遺族である河合俊雄こころの未来研究センター教授の挨拶と続き、最後に参列者に



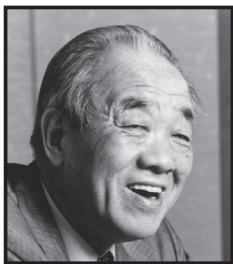
による献花を行い、在りし日の河合隼雄名誉教授を偲んだ。

(大学院教育学研究科)

訃報

このたびは、^{かわい はやお}河合隼雄名誉教授が逝去されました。
ここに謹んで哀悼の意を表します。
以下に同名誉教授の略歴、業績等をご紹介します。

河合 隼雄 名誉教授



河合隼雄先生は、7月19日逝去された。享年79。

先生は、昭和27年京都大学理学部を卒業後、同大学大学院(文学部)にて心理学を学ばれ、同30年4月天理大学講師に就任された。昭和34年9月から同36年1月までフルブライト留学生として米国カリフォルニア大学大学院に留学された後、同37年4月天理大学助教授となり、スイス国ユング研究所に留学され、昭和40年2月に日本人として初めてユング派分析家の資格を取得して帰国、同42年3月京都大学教育学博士号を授与された。昭和44年4月天理大学教授を経て、同47年4月京都大学教育学部助教授、同50年同教授に

就任された。昭和55年4月から同58年3月まで京都大学教育学部長を務められた。昭和62年5月から平成2年3月まで国際日本文化研究センター教授を併任され、この間昭和62年12月から平成元年3月まで京都大学学生部長を務められた。平成2年6月国際日本文化研究センター教授に就任され、同日付で京都大学教育学部教授を併任、平成4年3月に定年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。平成6年4月国際日本文化研究センター名誉教授の称号を受けられ、同7年5月から同13年5月まで国際日本文化研究センター所長を務められた。また、学術審議会委員、保健体育審議会臨時委員、宗教法人審議会委員、中央教育審議会委員、「21世紀日本の構想」懇談会座長、教育改革国民会議委員、文

部科学省顧問、今後の家庭教育支援の充実についての懇談会委員、経済産業省参与を歴任され、平成14年1月文化庁長官に就任され同19年1月まで務められた。

先生は、日本初のユング派分析家として日本におけるユング心理学の臨床的発展に多大な貢献をされ、臨床心理学および心理臨床学の第一人者としてこの学問を真の意味で日本に定着させた。先生は、日本心理臨床学会の設立に尽力され、昭和60年11月から平成3年10月、平成6年11月から同9年11月、平成12年11月から同15年11月の3期に渡って日本心理臨床学会理事長を務められた。また、日本箱庭療法学会の創設にも尽力され、昭和62年7月から平成8年3月の間、日本箱庭療法学会理事長を務められた。国際的には、スイスのエラノス賢人会議に数回に渡って招待され、そこにおける連続講義を始めとして、国際箱庭療法学会創設にも中心的に関わり、平成2年8月から同6年8月まで国際箱庭療法学会

会長を務められ、また数多くの国際シンポジウムを開催、参加された。平成4年9月日本心理臨床学会賞、同12年10月日本箱庭療法学会賞をそれぞれ受賞された。また、臨床心理学の実践活動を社会に定着させるために日本臨床心理士資格認定協会の設立に尽力され、平成元年11月に生まれた日本臨床心理士会の初代会長を務められた。

こうした学界での活動のみならず、臨床心理学者として日本文化を論じた功績には国際的にも高い評価を受けている。昭和57年10月には『昔話と日本人の心』で第9回大佛次郎賞、昭和63年6月には『明恵夢を生きる』で第1回新潮学芸賞を受賞され、これらの著作は外国語にも翻訳出版された。また、平成7年4月紫綬褒章、平成8年3月日本放送協会放送文化賞、平成10年1月朝日賞をそれぞれ受賞され、平成12年11月文化功労者に選ばれた。平成18年8月には特定非営利活動法人「文化創造」を設立された。

(大学院教育学研究科)

お知らせ

宇治キャンパス公開2007

宇治キャンパス60年 こしかた、これから

特別展示「宇治キャンパス60年」・総合展示

日 時：10月20日(土) 9:30～16:30
10月21日(日) 9:30～16:30

会 場：総合研究実験棟

公開ラボ

日 時：10月20日(土) 9:30～16:30
10月21日(日) 9:30～16:30

会 場：宇治キャンパス内の各研究所・センター・研究科の施設
および防災研究所宇治川オープンラボラトリー

(防災研究所宇治川オープンラボラトリーの公開は、10月21日(日)10:00～16:00のみ。当日、宇治キャンパスー宇治川オープンラボラトリー間はシャトルバスをご利用ください。)

備 考：施設により公開日時が異なりますので、詳細はプログラムにより確認ください。

相談コーナー

日 時：10月20日(土) 11:00～16:00
10月21日(日) 11:00～16:00

会 場：宇治生協会館1階

・大学受験コーナー ・宇治研究室紹介コーナー ・防災よろず相談コーナー



公開講演会

日 時：10月20日(土)10:00~12:00

会 場：生存圏研究所木質ホール 3 階セミナー室

演題と講師：「宇治キャンパスのこしかた・ゆくすえ」

理事・副学長 松本 紘

「にぎわいの宇治キャンパスを目指して」

防災研究所附属巨大災害研究センター長・教授 河田 恵昭

「最近の宇治キャンパスにおける若手人材育成プログラム」

次世代開拓研究ユニット長，化学研究所副所長・教授 時任 宜博

定 員：150名

参 加 費：無 料

各部局公開講演会

工学研究科附属量子理工学研究実験センター第 8 回公開シンポジウム

日 時：10月19日(金)10:00~17:00

会 場：生存圏研究所木質ホール 3 階セミナー室

演題と講師：「超短パルスレーザーによる薄膜表面のナノ構造生成・制御と物理過程」

エネルギー理工学研究所 教授 宮崎 健創

「中性子捕捉療法の現状と課題」

原子炉実験所 教授 丸橋 晃

「Micro Pixel Gas Chamber の開発と X 線・ガンマ線イメージングへの応用」

理学研究科 教授 谷森 達

「FFAG 加速器の開発」

原子炉実験所 教授 森 義治

「電子の反粒子“陽電子”で観る先端材料の極微構造」

産業技術総合研究所 鈴木 良一

定 員：150名

参 加 費：無 料

生存圏研究所公開講演会

日 時：10月20日(土)13:10~16:40

会 場：生存圏研究所木質ホール 3 階セミナー室

演題と講師：「きのこの代謝の秘密とその環境浄化への応用」

生存圏研究所 助 教 服部 武文

「腐れとシロアリ被害から家を守る」

生存圏研究所 准教授 角田 邦夫

「レーダーで探る大気の流れ」

生存圏研究所 准教授 橋口 浩之

「人類が生存する宇宙圏の2050年の姿を予想する」

生存圏研究所 教 授 山川 宏

定 員：150名

参 加 費：無 料

化学研究所公開講演会

日 時：10月21日(日)10:00~12:00

会 場：生存圏研究所木質ホール 3 階セミナー室

演題と講師：「スピントロニクスへの招待」

化学研究所 教 授 小野 輝男

「レーザー光の魅力とレーザー社会の今と未来」

化学研究所 教 授 阪部 周二

定 員：150名

参 加 費：無 料

樹木観察会(雨天中止)

日 時：10月21日(日)13:00～

集 合 場 所：生存圏研究所材鑑調査室前

主 催：京都大学宇治キャンパス公開2007実行委員会

問い合わせ先：京都大学宇治地区事務部研究協力課

E-mail：kokai@uji.kyoto-u.ac.jp

TEL：0774-38-3352 FAX：0774-38-3369

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.uji.kyoto-u.ac.jp/open-campus/2007.html>

無料法律相談のお知らせ

—11月6日(火)・11月8日(木)実施分について申し込みを受付中—

京都大学法科大学院では、授業の一環として行う法律相談実務演習(リーガル・クリニック)において、月に2度、無料法律相談を実施しております。

この無料法律相談は、日常生活の中で生じるさまざまな法律問題について、弁護士の立会いと指導のもと、既に法律知識を習得している法科大学院3年次の学生が市民の方々からのご相談に乗り、必要な助言を行うものです(秘密は厳守いたします)。

現在、11月6日(火)・11月8日(木)実施分について申し込みを受付中です。詳細は以下をご覧ください。

京都大学ホームページ「ご利用いただける施設」

http://www.kyoto-u.ac.jp/access/05_jyoho/jyoho_3.htm

あるいは

京都大学法科大学院ホームページ

<http://lawschool.law.kyoto-u.ac.jp/lclinic/info001-19.html>

問い合わせ先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院法学研究科大学院掛 リーガル・クリニック担当者

TEL：075-753-3262 FAX：075-753-3129 (午前10時～午後5時／土日祝休)

日誌 2007.8.1 ～ 8.31

8月1日 情報環境整備委員会

9日 オープンキャンパス(～10日)

〃 人事審査委員会

21日 全学共通教育システム委員会

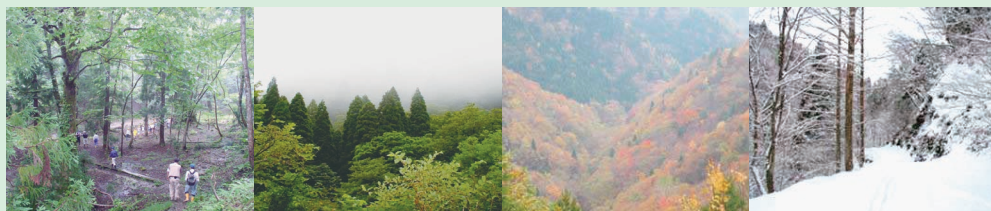
〃 東アジア研究型大学協会(AEARU)

第13回総会及び第21回理事会(於・時計
台記念館)(～23日)

24日 総長外国出張 キングファハド石油鉱物
資源大学 The Second International
Advisory Board Meeting に出席のため
米国を訪問(～28日)

29日 役員会

隔地施設 紹介



フィールド科学教育研究センター 森林ステーション・芦生研究林

芦生研究林は、2003年4月、京都大学フィールド科学教育研究センターの発足に伴い、「芦生演習林」から「森林ステーション・芦生研究林」と改称されました。その歴史は、1921(大正10)年、学術研究および実地演習を目的として、北桑田郡知井村(のちに宮島村ほか5カ村と合併して美山町となる)の共有林の一部に99年間の地上権を設定したことに始まります。

場所は、福井県と滋賀県に接する京都府北東部の山稜地帯に位置し、日本海に注ぐ由良川の源流域にあたる面積4,185.6ha(東西6km、南北7km)が研究林です。

気候的には日本海型と太平洋型の移行帯に位置し、地形的な特徴と相まって、気象条件や動植物の生態系も大変ユニークです。また、ここは暖温帯林と冷温帯林の移行帯のため、植物の種類が極めて多いのも特徴です。これまでに確認された種数は、木本植物(亜種を含む)が243種、草本植物が532種、そしてシダ植物が85種にのぼっています。



構内に咲くニコウキスゲ
例年7月初旬にラッパ状の
黄色い花をつける一日花

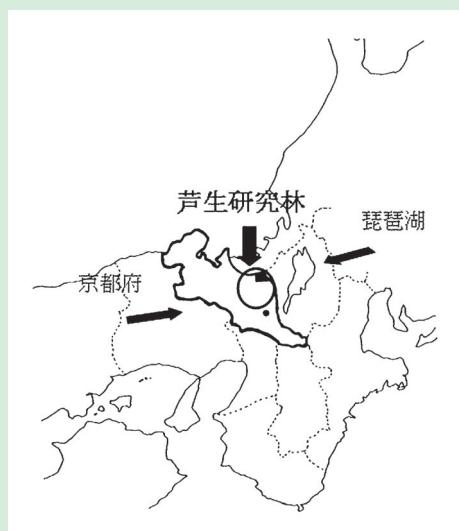


図-1 芦生研究林の位置

しかし、何と言っても圧巻は、本研究林の90%以上を占めている天然林の存在であり、このような森林は西日本では稀有と言っても過言ではないでしょう。

研究林内の棲息動物として、大型ほ乳類は、ツキノワグマ、カモシカ、ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ等、小型ほ乳類は、ヤマネ、ムササビ等に代表されます。鳥類は111種が記録されています。その他、貴重な爬虫類や両生類、新たに記録された蝶類やトンボ類等も確認されています。

教育面においては、全学部・学年対象の教育プログラム、農学部・農学研究科実習、理学部・総合人間学部等学内各学部・研究科実習、他大学実習等の教育プログラム等を実施しています。また、社会教育面にも力を注いでおり一般市民対象の公開講座、地域の親子対象開放事業、官民団体の研修・見学等、毎年多くの利用者を受入れています。なかでも、例年、7月下旬に2泊3日で行う一般市民対象の公開講座は、平成3年の第1回以来、今年で17回を数えるほどになっており、本研究林の代表的な行事になっています。今年は30人の募集に対して40人弱の応募がありました。また、昨年より春・秋に一般市民を対象に日帰りの“観察会”

を開いています。募集人数は20人程度の小規模なものですが、研究林の職員自らがアレンジしたメニューによる、アットホームな雰囲気の中での専門的な解説が売り物です。このように、多種多様な要請にも応えられる研究林なのが職員一同の誇りです。



森林組合との合同技術研修



秋の観察会

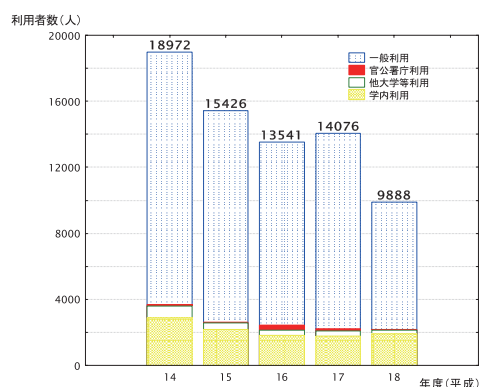


図-2 過去5年間の利用者数の推移

職員構成

教員 1 人, 事務職員 2 人,
技術職員 9 人, 非常勤職員
2 人

図-2は過去5年間の研究林利用者数の推移をグラフで示したのですが、学内利用、他大学等利用、官公署利用は、いずれもほぼ横ばいの状態であるのに対し、一般利用に関してはこの5年間で概ね減少傾向にあります。これは、社会教育面にも力を注いでいるのと相反するように思われがちですが、研究林は昨今、一般入山者の“オーバーユース”が大きな問題となっています。また、一般入山者の事故の増加という事実も踏まえ、滋賀県側からの一般入林に対する一部規制を実施しました。昨年度の総数が前年度比30%減という大幅な減少になったのは、そのことに起因すると思われます。ちなみに、死亡を含む遭難事故は毎年数件ずつ発生しています。

これは、社会教育面にも力を注いでいるのと相反するように思われがちですが、研究林は昨今、一般入山者の“オーバーユース”が大きな問題となっています。また、一般入山者の事故の増加という事実も踏まえ、滋賀県側からの一般入林に対する一部規制を実施しました。昨年度の総数が前年度比30%減という大幅な減少になったのは、そのことに起因すると思われます。ちなみに、死亡を含む遭難事故は毎年数件ずつ発生しています。



学生の教育実習および地元小学生の自然体験学習（右端）

研究面においては、これまで本研究林が主体となって行ってきたものとして、

- ・天然林の再生機構と林分構造の発達および維持機構に関する研究
- ・森林の環境保全機能に関する研究
- ・森林の生物的要因や気象要因による被害の解析とその防除法に関する研究
- ・人工林の育成および収穫技術に関する研究
- ・森林の多目的利用と森林情報の処理に関する研究

等があります。

なお、2003年度より全森林ステーションに跨る「森林生態系」・「森林環境系」・「森林資源共存系」の3部門からなるプロジェクト研究が新たに開始され、その成果が大いに期待されています。さらに、COEプロジェクト研究の一環として、カシノナガキクイムシの病虫害やシカ食害等の研究も展開しています。

現在、研究林の施設としては、構内に事務所、宿泊所、資料館(斧蛇館)、車庫、倉庫、職員宿舎等があります。資料館には、研究林の沿革、植生・地形や気象の概況、ツキノワグマ・カモシカ等の大型動物の剥製等を展示し、平日のみ公開しています。

なお、学生や研究者の利用できる宿泊所の宿泊可能人数は最大35名です。但し、食事のお世話は出来ませんので、自炊ということになります。

連絡先 芦生研究林

住 所 〒601-0703

京都府南丹市美山町芦生

電 話 : 0771-77-0321

F A X : 0771-77-0323

<http://www.fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/asiu/index.html>

E-mail : asiu321@blue.ocn.ne.jp

アクセス

公共交通機関利用の場合

J R 京都駅から J R バスで周山、南丹市営バスを乗り継いで約 4 時間～6 時間

京阪出町柳駅から京都バスで広河原(約 2 時間)、さらに徒歩約 3.5 時間

自動車利用の場合

京都大学から鞍馬経由で約 2 時間(約 60km 冬期通行止め)

京都大学から京北周山町経由で約 2.5 時間(約 80km 冬期タイヤチェーン)